

## 令和7年度第6回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）

開催日時 令和8年1月9日（金曜日）午後6時30分～午後8時15分

開催場所 立川市女性総合センター・AIM 第2学習室

出席者 [委員] 倉持 伸江 会長 檜崎 茂彌 副会長 大橋 正則 委員  
柴 香里 委員 梅田 茂之 委員 竹内 英子 委員  
難波 敦子 委員 宮本 直樹 委員 岩元 喜代子 委員  
杉浦 早苗 委員

[事務局] 立川市生涯学習推進センター長 鈴木 峰宏  
同 管理係長 加藤 暁子  
同 管理係員 中山 琴音（記）

傍聴 0名

- 次第
1. 開会
  2. 会長挨拶
  3. 報告事項
  4. 協議事項
  5. その他
- 配布資料
1. たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について
  2. 令和7年度第5回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）
  3. 【第1回教育委員会定例会資料】令和7年（2025年）第4回立川市議会定例会報告

会議内容

会議内容

1. 開会
  2. 会長挨拶
  3. 報告事項
- (1)たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について  
（会 長）A委員よりご説明をお願いします。

(A委員) 資料1です。たちかわ市民交流大学企画運営委員会の第1回と第2回の会議録です。まず、6月24日に行われた第1回の議事概要から、お話をさせていただきます。第9期の最終回で、11名の委員のうち5名がこの回で退任となりました。前半は、各委員より生涯学習活動の報告を行いました。8ページをご覧ください。令和6年度のいきいきたちかわ出前講座の実施報告がありました。令和6年度は23件の出前講座を行いました。9ページ目には、たちかわ市民交流大学事業方針の令和6年度の進捗状況について記載されています。今回は、今まで話し合ってきた活動の成果と課題のまとめの回でした。13ページにありますきらきら交流会の話では、受講生同士が交流するところで終わっているのではないかと課題提起があり、受講後、施設のボランティアを始めたり、団体の活動に参加するきっかけになったり、そういうところに繋がっていないのではと指摘がありました。「交流する学習の場・学園が形成される」、「学ぶというコミュニティが形成される」というところまではできている。学ぶコミュニティができていることを「生涯学習からはじまるまち作り」とするならば良いのですが、学んだことを地域に生かす、地域課題を解決していくような人材を輩出するところまではできてないということは、以前から課題としてよくあがっていました。学ぶ場所やコミュニティは多くありますが、それを人材育成に繋げていくというところはまだ弱い印象なので、強化していく必要があるとの話がありました。会議内容を細かくまとめていただいているので、読んでいただければ理解いただけるかと思います。続いて9月30日に行われた第2回の議事概要についてです。5名の新しい委員を迎え、第10期として、1回目の会になります。前半は委員間で情報交換を行いました。9ページをご覧ください。新しい事業方針についてです。今までたちかわ市民交流大学独自の方針を作成していたのですが、今後は生涯学習推進計画を事業方針にすることにしました。そうするとどう評価していくのか、フォーマットを変えなければいけないという話がありました。11ページからは、団体企画型講座の募集について記載されています。すでに募集をかけていますが、どのくらい募集があったのかはわかりません。そこから波及して、講座の電子申請などの新しい仕組みについて、委員の皆さんからご質問やご意見がありました。以上です。

(会長) ありがとうございます。何か質問等ありますでしょうか。(なし)

第1回の会議録の説明の際にありました学びのコミュニティをつくることはできているが、地域の中で学んだことを活かした新しいコミュニティ作りというところまではまだ至っていないんじゃないかというご指摘は、なかなか響くものがありましたね。この後、人材育成について協議予定ですが、地域には既に多くの人材がいますが、色々なところで活躍していくきっかけが学びだとしたらもう少し踏み込んでいきたいと思うところですね。とても重要なご指摘をいただ

けたと思います。

#### 4. 協議事項

##### (1) 令和7年度第5回立川市生涯学習推進審議会 会議録について

(会 長) 事務局よりご説明をお願いします。

(事務局・管理係員) 資料2です。事前に皆様にご確認をお願いしており、修正が2件ございました。審議内容に影響はございませんので、説明は割愛させていただきます。

本日他にご意見がございましたら、ご承認いただけたということで、市ホームページに公開いたします。よろしくをお願いします。

(会 長) ありがとうございます。何か修正やお気づきの点ございますでしょうか。(なし) それでは、承認とさせていただきます。

##### (1) 人材育成について

(会 長) 事務局よりご説明をお願いします。

(事務局・管理係長) 第7次生涯学習推進計画でも人材育成は、第6次より強調して課題としてあげられていました。計画の地域の担い手の育成とネットワーク化の支援、職員の専門的力量形成のページをコピーしたものを配布させていただいております。まず、事務局が今後やっていきたいと考えている職員の専門的力量形成についてお話しさせていただき、地域の担い手については、別途みなさまにご検討いただければと思います。職員の専門的力量形成について、計画の取り組み事項として研修体制の充実となっております。今一度、生涯学習推進センターの職員が参加している研修を洗い出しました。まず一つ大きなものとして、年に8回行っている東京学芸大学のコーディネーター養成講座に立川市からは毎年3人参加させていただいております。これは人事課にも予算措置をしてもらっています。生涯学習推進センター独自の研修としては、異動してきた職員に向け、施設予約システムやセンターの概要についての研修と生涯学習関係職員研修という年度末近くに毎年皆さまと一緒にワークショップなど行わせていただいているものがあります。その他に市民協働研修、ファシリテーター研修、SDGs研修、多文化共生意識啓発職員研修、LGBTQ+研修、DX研修など、様々な課が庁内の職員のレベルアップに向け研修をしております。毎年課で数名参加しております。その他にコンプライアンス研修、普通救命講習、防災講座、各種事務研修など、事業に活かせるような研修を庁内でもやっているのになぜここが課題になるのか、今回お話するにあたり、学習館に長年勤めている会計年度任用職員や係長にヒアリングを行いました。その結果、令和6年度の第6次生涯学習推進計画の進捗評価の総評に挙げられていた「研修内容そのものは良いかと思いますが、受講後、学んだことを実践する場や職員同士の交流・情報共有の場を設け、市民ニーズに的確に対応できる体制を整える必要があります。」と全く同じことをみんなが口を揃えて言ってお

りました。職員同士の交流、情報共有の場が最近少ないと。会長からも学芸大学のコーディネーター養成講座の共有化ができていないのではないかとご意見をいただいております。今さらになってしまいました。体制的に学んだことなどを共有する場をつくっていくべきだと感じました。昔は事業連絡会という共有の場を年に結構な回数開催していたのですが、だんだんと回数が減り、今はやっていない状況です。会計年度任用職員も含め、研修で学んだことや課題を共有し、お互いに高めあっていく場が必要だということに気づくことができました。今後、仕組みを作り、うまくまわっていくようにしたいと考えております。普段、管理係はあまり事業に関わっていないので、現場の意見を聞く機会が少なかったのですが、今回ヒアリングをしてみて、職員の課題感と進捗評価でのご指摘が一致していたというところ気づきましたので、全体に共有し、改善していければと思っております。こういった研修があると良いのではないかと、こういった強化の仕方があるのではないかとご意見があるかと思っておりますので、本日はお伺いできればと考えております。現状分析と事務局で考えている方向性は以上です。

(会長) ありがとうございます。今回は職員の育成について、お話しいただきました。進捗評価で、Cが続いている項目でもあるので、現状把握と課題点、改善案をお話しいただきました。今のお話についての質問やコメント、あるいは職員の専門的力量形成に関することをご意見がありましたらお願いします。

(B委員) すごく努力されているという部分は、理解できました。人が人に情報を伝えることで、研修が広まっていくこともあると思います。自分の性格的なものや地域で自分の考えを広めていくときに、人から人へ伝えていくことはすごく大切だと思います。現在、文書や映像で受講報告を行い、より多くの人に目にさせていただき、学んでいただく方法をとっているのでしょうか。帰庁報告のような形では、そこに来た人のみが受講の恩恵にあずかるため、一部分になってしまう。文書で伝播することで、活きた力になるのではないかと。私達は、学習館の運営を地域の人に広く知ってもらうために、映像や文書で取りまとめたものをできるだけ広報して、地域の人に理解してもらう方法をとっています。受講後の報告を必ず文書等でまとめてもらい、それを広くみんなに読んでもらうというのも一つの方法なのではないかなと感じました。

(事務局・管理係長) コーディネーター養成講座の報告書は、毎年学芸大学が作成してくださっています。ご指摘いただいて、はっと思ったのですが、その報告書を回覧はしているのですが、1冊の冊子なので、全員の手元に残るわけではありません。著作権などがなければ立川市から参加した人の分だけでも電子化し、いつでも誰でも読めるようにすべきだったなと思いました。

(会長) 報告書のデータがありますので、共有させていただきます。

(B委員) できるだけ多くの人々がいつでも閲覧できて、共有化が図れる方法を考えていかな

ければいけないのかなと思いました。

(会長) 学芸大学で行っている講座は、東京都公民館連絡協議会と立川市が共同して行っています。東京都公民館連絡協議会は、ホームページに実践記録を掲載して、誰でも見れる状態にしているようです。講座に参加した方が良ければ、デジタルで共有しても良いかもしれませんね。冊子だと探すのが大変なので、デジタルで人や場所、事業などで探せるようにすると参考になるものが見つかるのではないのかなと思います。是非ご活用ください。

(副会長) 研修後に参加者などが集まる時間があると交流の機会や質問が出てきたりすると思います。読むだけだと、読んで終わってしまう、あるいは読まない人もでてしまうと思うので、集まる時間を作れば、学びが広がっていくのではないのかなと思いました。今年を受講者、去年を受講者、一昨年を受講者が集まって、情報交換する場は作っていないのですか。

(事務局・管理係長) ないです。そのような場があった方が良いのではないかと職員からも意見がでております。

(副会長) 共有の場をつくることで、連帯感みたいなものも生まれるかと思しますので、是非やっていただければと思います。

(C委員) 職員の皆様の裏にある努力が、すごいものだと関心しました。職員の方が市民協働や多文化共生、DXなどの研修を受けているとお話がありましたが、これらについて、正直に言いますと職員の方からまともなアドバイスをいただいたことがありません。研修を受けているのにアウトプットできない、アウトプットの場がないということを考えてときにいくつか問題があるのではないかなと思いました。まず一つ目は、民間企業では、教育管理をするような部門があるのですが、立川市にも同じような部署があるのでしょうか。ないとすると先ほど管理係長から仕組みづくりをやっていくとお話がありましたが、スタンドプレーで動いて大丈夫なのかと心配になってしまいました。限界があるのではないかなと危惧しています。二つ目は、研修を受けられた方の評価制度はあるのでしょうか。例えば、市として、職員の方1人1人がレポートや報告書を出すことに対して何か評価をしているのかどうか。受けて終わりになっていないか、心配で。

(D委員) 研修を受けた方が職場に戻ってきて、学んだことを課内や館内の定期的なミーティングなどで共有しているのでしょうか。

(事務局・管理係長) 各館の係長の考えや力量に左右されてくると思うんですね。他の人と共有化はしていないのですが、今施設の管理が大変で、中規模改修や色々なものが壊れるんです。予算の調整など老朽化対応に追われて、係長が事業や職員の力量をどうしていくかなど、意識を向けられる人もいますが、施設の対応で手一杯の係長もいます。各館での対応では限界もありますので、全体で共有できる場をオンライン環境なども使って、何とかしていければと思っております。7, 8年前と比べて、

係長の施設対応の比重が高くなっているのです、全体の力で補っていく必要があるかなど。今まで、会計年度任用職員は 5 年ごとに採用試験を受け直す制度でしたが、この度その制度がなくなりまして、より安心して働けるようになったかなと思います。会計年度任用職員も含め、課全体で OJT ができていくような環境が作ればと思ってます。先ほど、C 委員よりご質問のありました教育体制についてですが、一般的な職員教育については、人事課の人材育成係が担当しています。ただ、人材育成係に生涯学習センターの職員の教育について何か特化してもらえるかというということはないので、自分たちでやっていくしかありません。スタンダードプレーにならないようにいろんな係長や職員と話しをしていきたいと思えます。皆さん共有化が大事と言っていたので、そこは何とかできるのではないかなど。評価制度については、研修報告書の提出などはありますが、研修を受けてどれくらい何が得られたかのテストみたいなものは、やっていません。

(E 委員) 職員の皆さんが情報共有の場をつくりたいと思っていると聞き、とても感激しましたし、既にやってらっしゃる研修の内容は本当に充実してると思えます。みんなて共有するという中で、一つ付け足したいことがあります。それは、自分で得た学習内容を業務等に活かしている、できていることがあるのならそれを共有していただきたい。よくできたことをポジティブに評価していただくことで、やる気に繋がると思えます。上からこれをやってほしい、やらなければならないというのだけでは、なかなか動けないと思うんですね。特に新人の方は、認められてこそ育つという方もいると思えます。お互いに認め合ってやっていければ、ただ研修を受けるだけで終わりとならないと思えます。生涯学習だからこそ、お互いに学び合って育っていこうという体制をぜひ作っていただきたいです。共有の場をつくっていこうという皆さんの心意気やお気持ちは、すごく嬉しく思いましたし、私も何か応援できることがあったらいいなとつくづく思いました。

(会 長) ありがとうございます。学芸大学の研修の報告書を使って、色々と派生できるのではないかと改めて思いました。講座で作成した実践記録を人や事業ごとにラベリングしてあげるとそれに関心がある職員さんが読んでくれると思えます。記録をお互いに読みあって、コメントを出し合うことで、オンデマンド研修みたいになるのではないかと。読む方にとっても研修になるし、コメントをもらおうと励ましにもなりますよね。ピアレビューみたいなものだったら仕事の隙間でもできますね。それが、情報共有や職員交流に繋がるかなと思いました。他自治体で、記録を読み合って、自分も関連する経験を出し合うという研修をやったことがあります。書いたものをシェアするという意味でいうと、例えば 2、3 ヶ月に 1 回オンラインニュースターのようなものを職員さん向けに発行しても良いかと思えます。今年は、〇〇学習館の〇〇さんが研修に参加していますだったり、研修に参加してる人から今こんなことやってますと報告してもらったり。記録だとたくさん読まなければ

いけないので、学校だよりのような形でシェアしていくのは、過度な負担がかからなくて良いのかなと思いました。学習館などでお世話になっている実習生が書いている実習日誌に行った先の職員さんがコメントを書いてくれます。実習は学生にとっても勉強なのですが、職員さんにとっても研修になるのではないかと研究者たちと話し合っていて、学生に対して事業の説明などをするには、事業の内容を理解していないと説明できないので、それが改めて自分の知識をレビューしたり、説明する力になっているのではないかと。学生に書いたコメントをシェアすると、このような講座に学生が参加して、学生から見るとこういう気づきがあって、それに対して職員がこういうコメントをしている。これもまた研修や情報共有になるのではないかと思います。先日、市民リーダーの交流会で出会った人に今年は生涯学習関係職員研修はやらないのか聞かれました。去年は、生涯学習関係の委員や職員が集まって、小グループでお互いの話をするスタイルでやりました。関係者の皆さんがどういうことを取り組んでいるのか、どのようなことを頑張っているのか、共有する良い機会になったとの声を伺ったので、講師をお呼びしてやる研修も良いですが、お互いのやっていることを少人数で聞き合う場も非常に効果的で、ニーズがあるのだなと思いました。あとは、講座に参加した方からの報告会みたいなものがあったら良いのかなと思いました。

(F委員) この職員に親切にしてもらったなど市民からの声はどのように拾ってらっしゃるのですか。

(事務局・管理係長) 苦情はメールで時々いただきますが、フィードバックをお受けする機会はあまりないように思えます。

(事務局・センター長) 講座に対する感想はいただいているので、そこに対する対応は進めていきたいと思っています。人材育成という捉え方でご指摘を受けて、良いご意見はモチベーションになりますし、良くない意見は反省をして、改善していくような流れは、なかなかできてない状況だと思っています。力量の問題に関しましては、申し上げにくいですが力量の差はあると思います。生涯学習の推進を意識して業務を進めていますが、理想とのギャップを埋めきれない部分はあるかなと。駄目という捉え方をするのではなく、改めて足元をきちんと見て、どのように生涯学習を推進していけば良いのか考えていきたいと思っています。まさに今日このような会議体で、ご意見を賜っているとと思うので、今後どう展開していくかを考えていきたいと思っています。

(F委員) 職員は、数年ごとに異動がありますよね。そうすると前任者が蓄積したノウハウなどを後任の方に引継ぎ、改善を重ね、時代に合ったものに変えていくといった体制はできているのですか。

(事務局・センター長) 引継ぎはしているはずだと思いますが、皆さんが望んでらっしゃるような、理想的なものを構築した中で、引き継いでいけるかということ、うまくで

きてるか確認できていないところもございます。

(F 委員) 短期間で職員が異動しているので、蓄積されたものを引き継ぐのは難しいのではないかなといつも思っていました。

(事務局・センター長) 容易ではないとは思いますが。私も今年度異動してきましたが、1年近くで、それなりに見えてくるものがあると思います。ですのでそういったものを皆さんにお話ができるような状況が少しずつはできてきたかなと。職員にも同じようなモチベーションや考え方を持ってもらおうよう説明していく必要が今後あるのかなと思っています。

(会 長) ありがとうございます。次回も人材育成について、協議できればと思っています。今日は職員の専門的・力量形成の現状、課題、ご提案を話していただいたので、そのことも引き続き協議しつつ、次回は地域の担い手育成についても協議できたらと思います。

## 5. その他

(1) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会について

(会 長) 11月29日(土)に国分寺市のひかりプラザで実施され、C委員、E委員、F委員が参加してくださいました。当日の様子をお三方ご報告をお願いします。

(C委員) 当日は、都市社連協の会長さんと国分寺市の教育長からお話をいただいた後、「居場所から見えてくる子どもたちの姿」というテーマで、認定NPO法人の代表の武藤さんから事例発表をしていただき、グループ討議・発表という流れでした。国分寺市や小金井市では、独自の取り組みを長くやってらっしゃることがわかりました。立川市は、独自の取り組みが全くない状況なので、非常に参考になりました。あと、防災で全国的に有名な高木町自治会の会長さんよりお話がありました。高木町は、けやき台団地のすぐ南側にあるエリアです。地域ぐるみで防災活動をしていく中で、子育て世代や学校、住民との連携をどのように構成して、うまく乗せていくかという成功事例のご紹介がありました。これは、自治会目線で非常に参考になりました。

(E委員) 「つながり、関わり合い、ともに創造する地域の未来～身近な課題を自分ごととして考えよう～」が都市社連協統一テーマで、第2ブロックのテーマは、「人と人をつながり学びが循環するまち～「広がる」・「超える」・「届く」～」でした。最初に「循環する」とはどういうイメージか絵を描く時間がありました。国分寺市では、子供たちを中心に本当に独自の取り組みをされていました。コロナ禍以降希薄になった人間関係を繋ぐためにどうしたらいいんだろうか、不登校の子たちをどう支えていこうかをNPO法人の方々が中心になって考えていました。事例発表のあったNPO法人冒険遊びの会がコロナ禍でも活動を続けていたとおっしゃっていたのがすごく印象的でした。子供も大人も悩み事を書いていられるように公園にポストを設置されてたそうです。その回答を模造紙などに貼って掲示する。そ

れを立ち止まって読むことで、希薄になった人間関係を繋いできたとのことでした。ボランティアに来る大学生は、何を話して良いか、どう話しかけて良いかわからないという子が多くなってしまった、それをもう1度再生していくにはどうしたら良いかといろんな取り組みをされていました。また、プレイステーションという子供や子育て世代の居場所を作られており、今後の担い手を育てていくような取り組みだと思いました。

(F委員) 私のグループでは、学校コーディネーターの話で盛り上がりました。地域との繋がりについて、他市でも課題になっていることがわかりました。他市の事例を聞いたり、色々と情報交換ができ、大変有意義な会でした。

(2) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

(会 長) 12月13日(土)に小金井市宮地楽器ホールで実施し、私とC委員とE委員で参加しました。

(E委員) すごく刺激的な会でした。小金井市の方から学校教育はシステムティックだけど、社会教育は緩やかに組織化や計画されるもので、それが良さであるという話がありました。あなたの困り事は私の困り事になるかもしれない、隣人の寄り添い方や課題とは解決に向けてチャレンジしていくことだと。遊びの力で親と子をエンパワーして、いくつかの体験の場を作ろうという内容の事例発表がありました。つつい大人が手出しをしすぎてしまうのだけれども、実は手出しをすればするほど子供は想像力などがなくなってしまう。子供は大人のパートナーであるという考え方や子供を仲間として意識するという考え方が、すごく素敵だと感じました。その他にも町田市では、限りなく廃止に近いと評価された市民参加型の事業を取り戻すために若い世代向けの展覧会を行ったという事例や瑞穂町では、ふるさと検定をしたり、ふるさと大学というものを催したり、寄席をしたりと興味を集めるような事業を行っていました。他市の取組について、具体的な話を聞くことができ、すごく良かったです。

(C委員) 前半は各ブロックの研究会の実施報告がありました。発表内容は、E委員からお話があった通りです。後半は、小金井市で活動しているNPO法人こがねい子ども遊パークやおやじの会、NPO法人アートフル・アクションの方々からそれぞれの活動のお話がありました。皆さん子供たちを中心に考え活動しておりました。一番印象的なのは、おやじの会の小林さんのお話です。おやじの会では、泣かせてはいけないというルールのみで、水鉄砲やチャンバラなどを子供に自由にやらせるようです。大人も本気でやるのが活動が続く秘訣と話されていました。安全性を確保しなければいけない、暴力的なことをやってはいけないなどと言われたこともあるみたいですが、そういうことは抜きにして、子供中心でルールを作っていくことを重要視することが、子供を伸ばすと。また、そこに関わっている大人も必然的

に学びに繋がるとお話しされていました。目の覚めるような言葉がどんどん飛び出して、感激する勉強会でした。

(3) 令和7年(2026年)第4回立川市議会定例会報告について

(会長) 事務局からご説明をお願いします。

(事務局・センター長) 令和7年11月28日から12月18日にかけて行われた議会です。

一般質問は11月28日、12月2日から4日まで、19名の議員から通告され、教育関連の質問は資料1ページ目の通りです。8ページ目をご覧ください。頭山議員から砂川学習館と八ヶ岳山荘での熊への対策について質問を受けました。12月12日に行われた文教委員会について、15ページ目をご覧ください。生涯学習推進センターでは、八ヶ岳山荘のあり方及び自然教室の方向性の中間報告と砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設整備事業における工事延伸と供用開始について報告しました。八ヶ岳山荘につきましては、中止または廃止という方向で進めていくことを報告しています。戻りまして、3ページ目をご覧ください。生涯学習推進センターでは13本の補正予算を審議いただき、そのうち10本は繰越明許費となっています。以上です。

(C委員) 高松学習館等空調機移設及び改修について、補正予算が通ったとのことですが、改修は来年度ではなく、今年度行うのですか。

(事務局・センター長) 補正予算としては、12月に議員の方々に認めていただきましたが、繰越明許となりますので、実際の施工は令和8年度になります。

(C委員) ありがとうございます。前回の地運協で、旧健康会館の空調機器を高松学習館に移し、不足する分を今回通った予算で賄うと聞きました。また、健康会館があった場所には社会福祉協議会のコミュニティエリアや学童をお迎えされるというお話がありました。こういう話を生涯審でも共有していただいた方が良いでしょう。

(事務局・センター長) 全て説明していると時間がかかってしまうので、説明を割愛させていただきました。C委員におっしゃっていただいたように旧健康会館の場所に社会福祉協議会の地域福祉アンテナショップができました。ふらっと立ち寄れる環境をつくり、コミュニティを形成していくようなコンセプトでやられていると聞いています。私も実際に見に行きましたが、親子や年配の方がふらっと来て、新聞を読んだりしていました。今後、学童も入ってくる予定で、複合施設的な動きをしているという状況です。それに対して、空調設備等をしっかり使えるように対応しているところです。

(A委員) 私も旧健康会館の地域アンテナショップに半日いましたが、かなり寒かったので、空調設備のご対応をよろしくをお願いします。

(副会長) 柴崎学習館の舞台照明設備改修工事費が補正予算で通ったと記載がありますが、

5月のすわっ祭までに工事は終わるのでしょうか。

(事務局・センター長) 終わる予定です。

(会長) ありがとうございます。その他何かありますでしょうか。

(事務局・管理係長) 第13期の生涯学習推進審議会委員の市民公募を行っており、1月13日が締め切りとなっています。その後、各選出母体の皆様に推薦依頼等を送らせていただきますので、よろしく願いいたします。二つ目は、お手元に青少年健全育成研究大会のチラシとたちかわっ子2025という冊子をお配りしております。どちらも子ども育成課から委員の皆様にご配付くださいということで、お預かりしたものですので、どうぞお目通しください。また、3月1日に行われる市民リーダーさんのプチ講座のつどいのチラシ、きらり・たちかわ冬号もお配りいたしました。その他、チラシはお配りしていませんが、生涯学習係が学校支援ボランティアの入門講座・登録説明会を2月16日に行う予定で、1月26日から受付開始となっています。

(G委員) 立川市には様々な分野の市民リーダーがいて、素晴らしいことなので、どんどん育てていくべきだと思います。年に1回秋に講師フェアをやっているのですが、目で見る展示会だけでは駄目だと思ったので、女性総合センターのホールで音楽パフォーマンスをやりました。やることが大事だと思ったので、やってみましたが、最初は出演者が2人程しかいませんでした。今は分刻みのスケジュールで、もっとやりたいという人がいっぱい出てきてるので、今回3月にプチ講座のつどいをやることにしました。今後は、秋と春に講師フェアのようなものを作り、講師の方々から表にでる機会をたくさん作りたいと思っています。表にでることが増えたら市民リーダーに対する研修を行ってくれるのではないかと期待しています。素晴らしい制度なので、人材を育てないと本当にもったいないと思います。

(H委員) 前回もご案内させていただきましたが、1月17日に防災の講座やります。電子申請を取り入れたところ定員の30人をすぐに突破してしまったので、40人に増やしました。電子の方が申請しやすいのかなと印象を受けました。

(D委員) 申し込みしやすい分、欠席率も高くなるんですね。当日来ない人がいるかもしれないので、多めにとっておいた方が良いかもしれません。

(H委員) 電子申請の方には、担当の方が前日などにリマインド連絡をしてくれるみたいですね。

(C委員) 11月30日のたかまつりに参加された学生さんがプレゼン資料を作ってください、昨日の地運協で発表していただきました。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

(会長) 錦学習館でも1月5日の地運協でプレ錦まつりについて学生たちがプレゼンし、委員の皆さんからコメントをいただくという会をしました。地運協の委員さんと協働して行ったことで、双方向の学びもあり、よかったなと思いました。

(E委員) 私はかわせみカフェに参加しました。学芸大の生徒さんがやられた桃太郎裁判という演劇がキャストिंगも良く、すごく洗練されたものでした。見に来ていた子供がこれから劇が始まるよと友達に連絡し、観客がどっと増えていました。鬼と桃太郎どちらが悪いのかという内容なのですが、幼児の子が鬼も桃太郎と仲良くなりたかったんじゃないかと言っていて、すごく感動しました。このような取り組みが積み重なって、子供たちのその時の思い出が育っていき、生涯学習になるんだなとつくづく感じました。

(会 長) そろそろお時間となります。次回は2月19日の18時30分からです。場所は未定となっています。

(事務局・管理係長) 次回の開催場所については、後ほどメールでご案内させていただきます。

(会 長) それでは、第6回生涯学習推進審議会を閉会します。ありがとうございました。